

## 凡例

一、本書は、Jules Micheler : Histoire de France の中世編 (Le Moyen Age) の全訳を六巻に分けたなかの第三巻である。カペー王朝の聖王ルイなきあと、弟のシャルル・ダンジュエーによつて、その《聖なるキリスト教世界》が、どのように瓦解し、とりわけ孫のフィリップ(四世)美男王、さらにヴァロワ王朝になつて、お人好しのジャン二世、その息子の賢王シャルル五世のもと世俗的・近世的國家に変質していったかが明らかにされている。

一、本巻冒頭に収めた「一八三七年の序文」は、ミシュレが一八三七年に刊行した『フランス史』第三巻のために執筆された序文で、その第三巻の内容は本訳書と同じ十四世紀を扱つた第五部と第六部である。

一、第〇部、第〇章といった章立てはミシュレの原書のとおりであるが、それぞれのタイトルは訳者が付けた。本文中、「原注」として挿入されているのは、フラマリオン社の全集に附されている注である。当全集には詳細な注が施されているが、本書では、本文を理解する上でとくに必要と思われたものを選んで「原注」として転用させていただいた。

一、人名、地名の表記については第一巻、第二巻の凡例で断つたように現地主義を基本としたが、フランス地方のそれについては、中世のこの時代はフランス王が宗主として支配した時代であり、フランス語式表記を用い、時に応じてカッコしてフラマン語式表記を附した。

一、なお、本書の記述のなかには、一七〇七年のイングランド王国とスコットランド王国の合併以前であるにもかかわらず、「イギリス」と「イングランド」が混在する形になつてしまつたが、フランスを侵略したイングランド軍はウェールズ人やアイルランド人も含んでいたので、基本的には「イギリス」あるいは「英軍」とし、そのイギリスのなかでウェールズやアイルランド、さらにスコットランドとイングランドとが対峙している場合は「イングランド」という呼称を用いた。

目次

一八三七年の序文 2

第五部 近世的国家の形成 5

第一章 シチリアの晩禱 6

第二章 フィリップ美男王と法王ボニファティウス八世 31

第三章 王室財政とテンプル騎士団 97

第四章 テンプル騎士団の壊滅（一三〇七～一三二四年） 130

第五章 フィリップ美男王とその三人の息子 173

第六部 ヴァロワ王朝 219

第一章 フィリップ六世（一三二八～一三四九年） 220

第二章 ジャン二世とボワティエの戦い 287

第三章 ジャックリーの乱 305

第四章 シャルル五世とイギリス人の駆逐（一三六四～一三八〇年） 363

訳者あとがき 430

人名索引 442

## 一八三七年の序文

ジュール・ミシュレ

十四世紀はフランスの国家が形成された時期である。三部会 (Les États Généraux)、高等法院 (Parlement) をはじめとしてフランスの主要な国家機構のすべてが始まるか、または、軌道に乗るのが、この十四世紀である。《ブルジョワジー》はエティエンヌ・マルセルの革命から、《農民》はジャックリーの乱から現れ、《フランス》自身、イギリス人との戦争のなかから姿を現す。《よきフランス語》も、十四世紀に始まる。

これまでは、フランスは《フランス》であるよりは《キリスト教世界》であり、ほかのあらゆる国と同様、封建制とキリスト教会によって覆われ、その巨大な影のなかに曖昧なまま溶け込んだようになっていた。それが夜明けとともに、自らを垣間見せはじめたのである。そして、中世の詩的な闇から抜け出すや、民衆的・散文的・批判的精神、反象徴主義といった、こんにち見られるものになったのだ。

法律家 (legistes) が僧侶と騎士に取って代わり、信仰 (foi) に代わって法律 (loi) が主役となる。聖ルイ王の孫は法王を捕縛し、聖堂を破壊する。もう一つの宗教である《騎士道》はクルトラー (フランドル語ではコルトライク) で、クレシーで、ポワティエで討ち死にする。

叙事詩には年代記が取って代わり、すでに近代的で散文的な、しかし真にフランス的な一つの文学が姿を現す。そこには内面的象徴性や《表象》は僅かしかなくなり、外面的優美さと実利的行動のみが幅を利かせていく。

フランスの古い法律は幾つかの象徴と詩的な決まり文句をもっていたが、いまでは、法律家たちの裁判所に詩が顔を出そうものなら処罰されかねない。《高等法院》なるこの偉大な散文家によって解釈され、判定され、殺されてしまうであろう。

かてて加えて、フランスの法律の象徴主義への服従の度合いは、昔から、ほかのいかなる民族のそれより少なかったが、それは形の上のことであって、そのために、豊かさにおいて劣ることはなかった。わたしたちは、そこに到達するのに長い道のりを要したことを少しも悔やんではない。フランスの法律の飾り気のない天分と早熟ぶりを正当に評価するためには、フランスと世界とを対置し、多様な国民の詩的法律と対照しなければならぬ。この場合に問題になるのは、法律の象徴体系 (la symbolique) である。わたしたちは、そこに《弁証法 la dialectique》という動的なものを追求する。その他方で、フランスの国民的演劇は、よりいっそう筋書きのしっかりしたものになっていくであろう。



第五部 近世的国家の形成

## 人名索引

※欧文表記は原著に従った。

### 【ア行】

- アウグスティヌス (聖) Augustin 144  
アウグストゥス Auguste 291  
アゴバルト Agobart 206  
アドルフ・フォン・ナッサウ Adolphe von Nassau 46, 48  
アフォンソ四世 (ポルトガル王) Alphonse 371  
アベラール Abailard 181, 307  
アランソン伯 Alençon, comte d' 265, 266  
アリアーネ Ariane 408  
アリストテレス Aristote 402  
アリストファネス Aristophane 99, 103  
アリス・ペラーズ Alice Perrers 393  
アルクール伯 Harcourt, comte d' 259, 298, 299  
アルテフェルデ (ヤコブ・ファン) Artevelde, Jacquemart 228, 240, 242, 248, 250, 260  
アルノー・ド・セルヴォール Arnaud de Cervoles 328  
アルフォンス・ド・ポワティエ Alphonse de Poitiers 6  
アルフォンソー一世 (アラゴン王。好戦王) Alphonse 120  
アルフォンソ十世 (カスティリヤ王) Alphonse 11, 12, 41  
アルブレ (伯) Albret, comte d' 353, 378, 380  
アルブレヒト Albert d'Autriche 54, 59, 62, 78, 83, 135  
アルブレヒト Albrecht 328  
アレクサンデル三世 Alexandre 69  
アレクサンドロス (大王) Alexandre 99  
アレティーノ Aretin 142  
アーロン Aaron 132  
アンゲラン・ド・マリニー Enguerrand de Marigni 40, 41, 150, 193-196, 198, 236  
アンドレ (アンジュー伯) André d'Anjou 412, 413  
アンリ二世 (シャンパーニュ伯、エルサレム王) Henri 11, 121  
アンリ四世 (フランス王) Henri 168, 403, 422  
アンリ・ド・フランドル Henri de Flandre 250  
イヴォ (聖) Yves 256  
イエス・キリスト Jesus Christ 22, 37, 51, 60, 79, 84, 88, 89, 103, 112, 113, 115, 116, 128, 130, 131, 142, 144, 155, 161, 165, 169, 170, 174, 208, 260, 278, 280, 352, 373, 408  
イザベル (エドワード二世の妃) Isabelle 159, 213, 214, 216, 230, 238,

### ジュール・ミシュレ (Jules Michelet)

フランス革命末期の1798年8月にパリで生まれ、父親の印刷業を手伝いながら、まだ中世の面影を色濃く残すパリで育ち勉学に励んだ。1827年、高等師範の歴史学教授。1831年、国立古文書館の部長、1838年からコレージュ・ド・フランス教授。復古的王制やナポレオン三世の帝政下、抑圧を受けながら人民を主役とする立場を貫いた。1874年2月没。

### 桐村泰次 (きりむら・やすじ)

1938年、京都府福知山市生まれ。1960年、東京大学文学部卒 (社会学科)。欧米知識人らとの対話をまとめた『西欧との対話』のほか、『仏法と人間の生き方』等の著書、訳書にジャック・ル・ゴフ『中世西欧文明』、ピエール・グリマル『ローマ文明』、フランソワ・シャムー『ギリシア文明』、『ヘレニズム文明』、ジャン・ドリュモール『ルネサンス文明』、ヴァディム&ダニエル・エリセーエフ『日本文明』、ジャック・ル・ゴフ他『フランス文化史』、アンドレ・モロワ『ドイツ史』、ロベール・ドロール『中世ヨーロッパ生活誌』、フェルナン・ブローデル『フランスのアイデンティティ I・II』、ミシェル・ソ他『中世フランスの文化』、ジュール・ミシュレ『フランス史 [中世] I』、『フランス史 [中世] II』 (以上、論創社)がある。

## フランス史 [中世] III

### HISTOIRE DE FRANCE: LE MOYEN AGE

2017年3月20日 初版第1刷印刷

2017年3月30日 初版第1刷発行

著者 ジュール・ミシュレ

訳者 桐村泰次

発行者 森下紀夫

発行所 論創社

東京都千代田区神田神保町 2-23 北井ビル

tel. 03 (3264) 5254 fax. 03 (3264) 5232

振替口座 00160-1-155266

<http://www.ronso.co.jp/>

装幀 野村 浩

印刷・製本 中央精版印刷

ISBN978-4-8460-1599-2 ©2017 Printed in Japan

落丁・乱丁本はお取り替えいたします。